

多自然川づくり取り組み事例

タイトル：川原川総合流域防災事業による「復興かわづくり」		
水系/河川名：二級河川気仙川水系川原川	河川分類：中小河川	
河川の流域面積：11.72km ²	整備計画流量：150m ³ /s(W=1/30)	セグメント：1
事業：河川改修	事業開始年度	平成元年度
目標設定：定性的	段階	D(実施・施工時)
課題・目的(主な)：水際域の保全・再生・創出、蛇行水路・旧川・緩流域の保全・再生・創出		
工法(主な)：掘削(低水路)、護岸整備、河道法線修正、魚道、落差工、帯工等の整備、階段工の整備		
配慮事項(主な)：河川景観への配慮、歴史・文化への配慮、施工管理		

背景・課題、目標設定

<背景>

川原川は陸前高田市の中心市街地を貫流する河川で、従来から市民の生活に密接に関連する河川であった。平成23年の東日本大震災により中心市街地が甚大な被害を受けたことから、震災からの復興まちづくり計画に基づき復興土地区画整理事業と一体となった河川改修を進めているところである。

周辺の土地利用や環境が大きく変化したことから、河川改修の計画を一から見直す必要が生じた。

<課題>

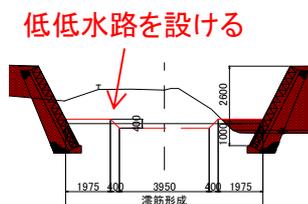
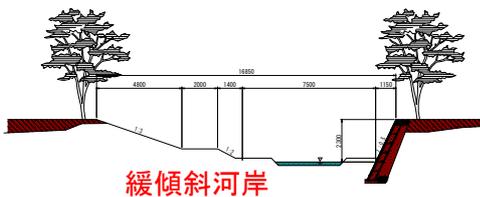
周辺事業との一体的な設計検討や施工計画を綿密に調整しながら事業を進める必要がある。

<目標>

川原川の歴史や景観に配慮し、沿川住民の記憶を再現し人々の記憶に残る「川らしい川」をつくる。

取り組み内容・対策例

- ①河床埋戻し時の低水路整備により、自然の力で水際が形成されることを期待
- ②震災前の記憶の再現や景観に配慮した、川原川に従来から存在した石積護岸を整備
- ③護岸を設けない緩傾斜河岸により、水辺へのアクセス(親水性)を確保



モニタリング結果、アピールポイント、今後の対応方針

<整備効果>

- ①流水の作用で低水路が崩れて良好な水際が形成
- ②石工職人による丁寧な石積が河川景観に調和



天端や水際植生の繁茂により護岸が周辺景観に馴染んできた

③緩傾斜河岸で親水性確保



<今後の対応方針>

未整備区間の整備や、パーブエ・潜り橋・管理用通路・転落防止(柵or低木植栽)等を整備し、公園と一体的に景観・環境豊かな河川空間の確保に努める。

備考

問い合わせ先 岩手県 沿岸広域振興局土木部 大船渡土木センター 河川港湾課

電話番号 0192-27-9919

平成30年度 全国多自然川づくり会議 東北ブロック選出
気仙川水系／川原川 岩手県 大船渡土木センター

川原川総合流域防災事業による 「復興かわづくり」

Keywords : 水辺のテーマ設定, 緩傾斜河岸, 石積護岸

●取組事例1



緩傾斜河岸及び自然に形成された水際 (整備後)

●取組事例2



石積護岸 ~川の記憶の継承~

東日本大震災からの復興まちづくりと足並みを揃え、人々が再び川に集まれるような水辺空間を創出すべく、復興かわづくりとして「自然・文化・記憶の継承」にフォーカスした「川らしい川」の整備についての取組みを紹介する。